

## 特記事項

### 1. 高い就職率と就職支援満足度

本学の特徴の1つに高い就職率がある。令和元(2019)年度卒業生の就職率は99.8%であり、平成28(2016)年度から4年連続して99%を超えている。また、平成31(2019)年3月に行った卒業生アンケートにおいて、94.6%が「本学の就職支援に満足」と回答している。これらの高い数字はキャリアセンターによるきめ細やかな就職支援が反映されたものである。専任の職員が学科ごとに置かれ、就職担当の学科教員と連携して学生の個別指導にあたっている。16科目のキャリア形成科目がカリキュラムに組み込まれているとともに、入学直後から内定までスムーズなステップアップで確かな実践力を養う就職支援プログラムが学生の就職活動をサポートしている。

### 2. OCPS (Overseas Challenge Program for Students)

異文化を理解する心を持ち、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的として、様々な海外留学プログラムを実施しており、これらの活動の総称をOCPSと名付け、国際人を目指す学生を支援している。長期休暇を利用して協定校などで語学力向上と国際感覚の養成を目指す「海外語学研修」はオーストラリア、イギリス、アメリカ、カナダの4か国の研修を企画している。海外での就業体験を通してキャリア形成の動機付けを目的とした「海外インターンシップ」では、タイ、ベトナムに事業所を持つ日系企業で約3週間に渡って就業体験を行う。タイでは同時期に実施の、日本語を学ぶタイの高校生の授業をサポートする「日本語アシスタント研修」に参加することもできる。さらに、平成30(2018)年度から始まった、積極的に海外留学に挑戦する学生へ最大50万円を給付する制度「Seize the day」には、令和元(2019)年度までに7人の学生が応募し、留学費用の支援を行った。

### 3. 充実した障害学生支援

本学の学生生活支援室は、障害学生支援の窓口として保健師(2人)、非常勤のカウンセラー(3人：元特別支援学校教員1人、社会福祉士・公認心理師1人、臨床心理士・公認心理師1人)及び各学科から選出された教員カウンセラー(9人、内1人は臨床心理士・公認心理師)からなる。教員カウンセラーは、所属学科の学生の状態を見守るとともに、専門カウンセラーとのパイプ役として機能し、各学科と学生生活支援室の連携を促進する役割を果たしている。学生生活支援室には、学生がいつでも自由に過ごせるフリースペース、個別に相談を受けることのできる個室が用意されていて、総学生数が2,000人強の規模の大学としては充実した人員ならびに設備が整えられている。

また、障害学生支援委員会を設置して障害学生の移行支援、修学支援及び就労支援に組織的に取り組んでいる。移行支援として、附属高校と年2回移行支援会議を実施している。修学支援においては、大学組織全体での修学支援の対応手順を明確化し、支援を行っている。就労支援においては、平成30(2018)年度より、地域の社会福祉法人との連携のもと、発達障害学生のインターンシップや就労移行支援に取り組んでいる。また、身体が不自由な学生の移動介助に携わる学生を対象として障害の理解等に関する研修会を開催している。